

気持ちつながる言語

手話学び互いに支え合う

「登米市手話教室」が7月25日から8月8日まで、全5回にわたり市役所南方庁舎で開かれました。

教室は、聴覚障がい者が安心して暮らすことができるように、手話の大切さを学びながら聴覚障がい者への理解を深め、挨拶などの簡単な手話表現を習得することを目的に開催。参加した遠藤美枝子さん=追町八幡=は「障がい者支援のボランティアに参加していて、耳の聞こえない人と手話でコミュニケーションが取りたいと思ったので受講しました。教室のほかにも手話サークルに参加して、簡単な会話ができるようになりました」と話しました。



参加者は、手話での自己紹介や道を聞かれた場合の対応などについて、真剣な表情で学んでいました。

笑顔はじける梅雨祭

祭り通して南方地域交流

「ふれあいあじさいまつり」(南方コミュニティ運営協議会主催)が7月1日、大嶽山交流広場で開かれました。

祭りは、地域の団体や住民の連帯感と世代間交流を深めることを目的に開催。ステージ発表では南方地区の小中学生が大嶽太鼓、大黒舞、畑岡神楽、吹奏楽を披露したほか、水ヨーヨーすくいなど親子で楽しめるふれあいコーナーが設けられ、会場は多くの来場者でにぎわいました。家族で来場した白鳥絵理さん(40)=南方町沢田=は「こどもの笑顔を見られたことや地域の人たちと交流できてうれしかったです」と話しました。



中学生が奏でる吹奏楽の音色が会場に響き渡り、来場者は聞き入っていました。

ふるさと結ぶ架け橋

在京町人会代表者が集う

「登米市在京町人会連絡協議会総会」が7月28日、東京都上野で開催されました。

協議会は、市と首都圏との交流を目的として在京町人会代表者で組織されています。総会では、議案審議に続き、首都圏内のホテルなどで開催される市産食材PR事業や、昨年度制定した市子ども・子育て条例の紹介、ふるさと応援寄附金の取り組みなどについて情報共有したほか、各町人会から近況について報告がありました。在京町人会は、今後もふるさと登米市とのパイプ役として、各会の活動を通して市の発展に協力していくことを確認し閉会しました。



総会に出席した在京町人会代表者。ふるさとへの思いを共有しながら、交流を深めました。

歌声響き聴衆を魅了

夏の山唄全国大会を開催

「第17回夏の山唄全国大会」(宮城県仙北民謡協会主催)が7月9日、米山公民館で開催されました。

農村に伝わる朝草刈りの仕事唄「夏の山唄」を後世に継承し、地域の文化振興を図るため開催しているこの大会。少年少女、一般、熟年の3部門に、全国各地から合わせて136人が出場し、日頃の練習の成果を披露しました。出場者の伸びやかな歌声に、観客から大きな拍手が送られました。松本莉奈さん(20)=福島県福島市=は「小学生の時から出場していて、今回初めて一般の部で歌いました。少し失敗してしまったので、来年に向けてこれからも練習したい」と話していました。



アトラクションで民謡を披露した米山東小の児童。4年ぶりの大会開催を待ちわびた観客が、会場を埋め尽くしました。

まちに活気と躍動を

佐沼夏祭り観客ひしめく

「登米市佐沼夏祭り」(同実行委員会主催)が7月30日、追町佐沼地区で開催されました。

郷土芸能「佐沼鹿踊」を皮切りに、みこしや山車とともに法被や装束を着た参加者の威勢の良いかけ声通りに響き渡り、手踊りパレードでは総勢160人の踊り手が会場をにぎわせました。飲食ブースなどの規制を緩和しての開催となった今年、特設ステージイベントや立ち並んだ屋台は、開放感に包まれた人たちで混み合いました。祭りを締めくくる花火は午後7時30分にスタート。約4,600発が夜空を彩り、大勢の観客が次々に打ち上げられる大輪の花火に歓声を上げていました。



登米市で35.8℃を記録し猛暑日となった祭り当日。熱気に包まれる中、会場は祭りを楽しむ人の笑顔であふれました。

団体戦で交流楽しむ

パークゴルフ市長杯開催

「第3回登米市長杯高森あじさいカップ・パークゴルフ大会」は7月18日、高森パークゴルフ場で開かれ、市内外から37チーム148人が参加しました。

大会は、1チーム4人組の団体戦で競い、初心者から上級者まで楽しめる変化に富んだコースの魅力を体感しながら、パークゴルフを通じて参加者相互の交流を図ることが目的。4位に入賞した「登米郡団」チームの佐藤新市さん(71)=中田町浅水新田=は「第1回、第2回と優勝できたので、3連覇を狙っていましたが残念でした。次回は優勝できるように頑張りたいです」と意気込みを語りました。



プレー中は、笑い声や歓声が上がると、上位入賞を目指しながらも楽しみながらプレーしていました。